

佐伯史談

第八十二号

「舞上史研究」誌
通算第四百号

昭和四十七年五月十二日発行

佐伯史談会

事務局 佐伯市大字鶴垣寺龍護寺羽柴方

提唱

佐伯の自然と歴史

どうとらえ、どう守るべきか

佐伯史談会

副会長 羽柴 弘

城山と彦直川に象徴されるとも言える佐伯の、美しい
 瀬川の風物と、伝統ある古い歴史は、古くから人々に諸
 られ、又独歩の名文章によつて広く紹介されて、自他共
 に佐伯のよさを認めていた。然し終戦後の激動と、つづ
 く時勢のほげしい推移は、容辭なくそれらを変えようと
 している。且ては独得のニユアンスをもつて「佐伯」と
 愛称されていた私どものふる里は、今どうなつていよう
 か。或はどう変ろうとしてゐるのであるうか。

最近、佐伯市をはじめ周辺の町村は、言ひ合あせたま
 うに、それ／＼の町や村の歴史追求の動きが活発になつ
 た。町村史の編さんとか、史談会の発足とか、そしてそ
 れにつれて珍らしい古文書の発見や、民俗資料の蒐集、
 或は民俗芸能の保存や伝承の記録といった盛衰で、筆者
 の手許には毎日のようにそんな方面の連絡があり、忝接

に忙しい。
 これはよいことである。放つておいて、時の流れに任
 せていたら、再び戻つて来ることはいふつかしい。これら
 文化資料の調査や蒐集は、今こゝろがせにならないう時
 である。

且て十年ほど前私は、佐伯地方には文化財も古文書資
 料は貧困で、毛利家のものを除けば、民間には殆んど無
 いものとして歎いたものであった。ところがどうしてど
 うして、今では豊山村にも漁村にも、意外な文化財があ
 ることがわかつた。古文書だけについて見ても、既に二
 十数か所におたつて埋没

の中から発見され、それ
 がれ地元の人達によつて
 解読研究が行われている。
 佐伯地方の風致景観の
 よさは、最近いよいよ高
 く評価され、それにつれ
 て天然記念物や民俗芸能
 史跡などの調査も中広
 くすすみ、今も佐伯地方は
 宇佐や国東、日田や竹田
 に比べて、決して貧困で
 ないことを知つた。まこ
 とに嬉しいことである。

本号の巻

提唱 佐伯の自然と歴史(羽柴弘)……一
 阿見 龍溪・矢野文雄著……二
 (山内武蔵)
 阿見 龍溪・明徳堂の佐伯藩……三
 (佐伯實一)
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……四
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……五
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……六
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……七
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……八
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……九
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……一〇
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……一一
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……一二
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……一三
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……一四
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……一五
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……一六
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……一七
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……一八
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……一九
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……二〇
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……二一
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……二二
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……二三
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……二四
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……二五
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……二六
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……二七
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……二八
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……二九
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……三〇
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……三一
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……三二
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……三三
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……三四
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……三五
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……三六
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……三七
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……三八
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……三九
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……四〇
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……四一
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……四二
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……四三
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……四四
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……四五
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……四六
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……四七
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……四八
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……四九
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……五〇
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……五一
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……五二
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……五三
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……五四
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……五五
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……五六
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……五七
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……五八
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……五九
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……六〇
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……六一
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……六二
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……六三
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……六四
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……六五
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……六六
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……六七
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……六八
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……六九
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……七〇
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……七一
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……七二
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……七三
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……七四
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……七五
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……七六
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……七七
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……七八
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……七九
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……八〇
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……八一
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……八二
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……八三
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……八四
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……八五
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……八六
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……八七
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……八八
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……八九
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……九〇
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……九一
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……九二
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……九三
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……九四
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……九五
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……九六
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……九七
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……九八
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……九九
 阿見 龍溪の神皇正統記(高成三郎)……一〇〇

ところが見ると、それらの貴重なるものはほとんど消滅、破壊されることに直面している。緑一帯の美しい自然は、最近の宅地造成や道路堤防の改修、個人住宅の改築や改造などで、次々と破壊されている。例えば封建社会を管々と生き抜いて来た、庶民の暮らしと物語る地方古文書や民具、社寺や、路傍のお堂や祠や石仏など、一つかいていっていると焼きすてられたり、ブルドーザーの餌食になつたりする。それらは一度失つたら最後で、もう二度と見ることができなくなる。市町村の担当者のおまぬろい判断や措置に任せきりであつたり、或いは所有者や業者の心ない延置のままにしていたら、それこそ大変なことになる。これはどうして私たちが佐伯史談会が立ちあがり、郡市全域におわたつてその調査研究の綱の目を細かにし、相携えてその監視、保護に立ち上らなくてはならない。

最近、公産追放佐伯市民会議が、二十年近く佐伯湾をよごしつづけて来た興人の廃液公害とたたかつて、一つの勝利を収めた。それは民間の一組織が、企業を問いつめてこれに打ち勝つた点で、全国初めのこととして高く評価されている。これは出来る事のである。昔々美しい佐伯湾、白魚のほろ香五川が、とり戻せそうだという大きな希望がわいている。あが佐伯史談会よりも、その組織の中に三十数名の会員が参加し、数人が中心が常任理事としてその役員会に名を連ねている。然しこの市民運動には、更に多数が参加し協力すべきではないか。

いおゆる公害は、いろいろな形で、次々と郷土の歴史と自然を損なつておいている。放っておけないことである。これは佐伯市だけの問題ではない。その破壊の波は、容赦なく郡部にも及んで行くことは必至である。即ち産業公害、建設公害、交通公害、高産公害などと、それら

がどれだけ自然景観をそそない、我々の生活と結びかかっていることか。

更にいけないのが民俗文化資料の無視、放任、由緒ふかい史跡や古塔などの破壊も散見である。

これらの監視態勢を、佐伯市、南郡全域に亘つて、わが史談会が各町村の史談会員と協力して持つことにしよう。これはすばらしい組織であり、大きな力となる。「これは一大事」ということでも見つけたら、即刻私の方(佐伯史談会事務局)に通報していただく。私の方ではすぐ現地に出向き、関係方面に交渉し応急の措置をとる。一方地域の人々にも働きかけ、世論にも訴えよう。そして大きく全佐伯の問題として防護したい。

史談会自体も、従来の地域方面別をやつていた現地研修(史跡めぐり)の際は、文化財パトロールのつもりで、地域の人々にその愛護を呼びかけ、監視をお願ひするにとしたらどうであらう。

このようにして、郷土の自然と歴史、傳統ある文化も民俗も、われわれ佐伯史談会の手で、積極的に維持、保存を願うてはなないか。その主導的な役割りを果たして出ようではないか。

会員みなさんの奮起を希望するものである。(かわり)

城下町花便り(一)

(余白うめ)

まこと花ののちは短かい、盛衰をほこつていた佐伯さん、
 散り、分ちちちれんげつべが眼をなましてゆく。
 紅白、花八州、煙雨ノ中、こがは恐ろしく唐詩の一句であ
 るが、後には昔小笠原四年かの「養平」で習った、さてこれ
 が、煙雨の詩節、城下町にどんな花が咲いてくれるか。